

すずかみん

第155号
2019年11月

日本共産党鈴鹿市議団 市議会報告

県下一高い国保料

国保基金のため込み13億円を 引き下げに回せ



日本共産党鈴鹿市議団
高橋さつき市議 石田秀三市議

石田議員は9月議会で、国民健康保険会計の決算について質問しました。2018年度は2億8千万円の赤字、そして赤字を貯めた「支払準備基金」残高は13億円余。これは1年分の保険料収入39億円の3分の1に当たります。

石田議員は、16年度に平均17%も引き上げられ、県内トップになった高い保険料、その結果ため込んだ13億円を、市民に還元すること、とくに「均等割」保険料を引き下げを求めました。

国保にしかない「均等割」保険料 子どもから取るな

保険料「均等割」(1人4万800円)は、所得と関係なく世帯人数で計算され、生まれたばかりの子どもからも容赦なく取り立てる「現代の人頭税」です。他の保険制度には無い国保だけの制度で、全国知事会・市長会も国に廃止を求めています。



石田議員は、18才以下の子ども全ての均等割を無くすには1.2億円で出来る、基金13億円の一部を回せばよいと実行を求めました。

末松市長や担当部局は、子ども「均等割」の引き下げは必要との認識はあるものの、負担の公平性や財政の

三重県下14市の国民健康保険料の比較(2018年度)

順位	1人当り保険料	モデル世帯保険料
1	鈴鹿市 113,494	鈴鹿市 600,500
2	鳥羽市 110,906	津市 587,000
3	津市 107,256	鳥羽市 538,300
4	桑名市 103,256	松阪市 525,900
5	いなべ市 100,555	桑名市 499,200
14市平均	93,872	498,135

(モデル世帯・自営業40代夫婦と子ども2人・年所得300万円)

すべて洋式化への改善を求める

古い・臭い・汚い、鈴鹿市の学校トイレ



亀山中の学校トイレ

高橋さつき議員は6月議会一般質問で、学校トイレの改善を求めました。

鈴鹿市の小中学校は昭和40〜50年代に建てられた校舎が多く、老朽化がすすんでいます。トイレは多くが湿式(昔ながらのタイルの濡れた床)に和式便器です。洋式化率は全国43.3%、三重県41.5%、鈴鹿市は31.4%と遅れています。

亀山市では9年前に改修、きれいなトイレに

高橋議員は、お隣の亀山市は9年も前に集中的にトイレ改善に取り組み、洋式化率69%になっていることを紹介。明るくてベンチの付いた入口、便座も温かく、男女1つずつは手すり・ウォッシュレット付き、中学校では「音姫」便座除菌スプレー付き、など子どもたちへの思いやりが見られます。高橋議員



神戸小のトイレ

状況から実施は困難、国に強く要望すると答えるのみでした。石田議員は、来年度に向けて市民の負担を減らす検討を重ねて求めました。

高橋議員は、今の子どもたちは家庭でも洋式トイレで育っているので、和式を使わず我慢して便秘になったりして、心にも健康にも悪影響を及ぼしていること。また、災害時に避難所となる学校や公共施設のトイレが、誰もが使えないようになっているのも問題だと指摘しました。

中道教育長は、学校トイレの洋式化はおくれており、計画的に進めていく課題だと認識している。公共施設マ

市営住宅の定期的な点検・補修を

鈴鹿市の市営住宅団地は16カ所ありますが、その多くが築30年以上で老朽化が進んでいます。市の「長寿命化計画」では、今後しっかりと改修工事を「行なう団地」と、行わない団地「に分類し、「行わない団地」は「維持保全」のみとされています。

石田議員は6月議会で、「維持保全」とされた岡田団地の、外壁や手すりの塗装が劣化しているも補修されないことを取り上げ、市はいま暮らしている入居者に「健康で文化的な」住居を保障する責任があり、「古いながらもきちんと手入れがされている」状態に補修することを求めました。



市営岡田団地

ネジメントや財政負担の平準化を考慮しつつ、学校生活の利便性向上を図っていききたいと答弁しました。

10月から幼児教育・保育無償化がスタート

0〜2才児は対象外など、多くの問題点



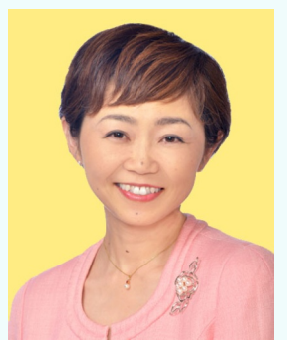
給食も無償化の対象にすべき

高橋さつき議員は9月議会で、10月からスタートした「幼児教育・保育無償化」の問題点について質問しました。

一方3〜5才児の世帯は、所得が多いほど恩恵を多く受けることになり、格差を広げます。高橋議員は、子どもに差をつけず、ひとしく保育をするために、0〜2才児にも市独自の助成を求めました。

保育士の処遇の底上げを

高橋議員は、保育士は全産業平均より10万円も給与が低い、公立と私立、正規と非正規の格差も大きく、自立して生活できる水準でないことが、人材不足の要因になっているので、県内他市のように補助金を出して、処遇の底上げをはかるよう求めました。



高橋さつき 市議

市民の足「コミバス」(地域公共交通)めざして、来年度に実証運行

末松市長、早期実現に意欲しめす



末松則子市長は、改選後の6月市議会で地域公共交通について、「本市にふさわしい移動手段のあり方」を検証し、総合的な公共交通体系の構築をめざすことを表明しました。

約者」が市内全域にいると考えるべきで、全市を対象にすること、「有料」や地域に費用分担させる方式ではなく、費用は行政が負担すること、などを求めました。



石田 秀三 市議

石田秀三議員は一般質問で、これから市が進めようとする「実証運行」について、鈴鹿のような町は「移動制

担当する都市整備部は、交通の専門家などで構成する『公共交通のあり方を検討する会議』を設置、あらゆる可能性、あるべき姿につい

て、これまでの枠組みにとらわれることなく幅広い視点に立って検討し、来年度には実証運行を進めたいと答えました。

実証運行は「無料」で行なうことを要請

「コミバスをよくする会」

「鈴鹿市民のコミバスをよくする会」(辻井良和会長)

上水道事業に一般会計から8億円を支援

6月補正予算に、一般会計から水道会計への「上水道安全対策事業出資金」として、約3億円が計上されました。これは鈴鹿市上水道の基幹的な配水施設である「住吉配水池」の更新事業に、工事費の4分の1を支援する予算の本年度分。完成までの全体事業費32億円に対して、支援総額は8億円となります。

引き上げた水道料金の見直しを

2017年12月議会に水道料金の12%値上げ案が議論された時に、共産党市議団は「一般会計からの支援で値上げを半分に抑える」提案をしました。

しかし水道局は、上水道事業は「独立採算」が原則であり、一般会計からの財政

は2012年に発足した市民団体に、先進地の見学、住民懇談会、アンケート活動などを取り組みながら、末松市長や担当部局との意見交換も続けています。

石田議員は9月議会で、市道の除草について質問しました。市は主要な市道14路線の除草を、業者委託で年2回実施していて、範囲は「路肩から1メートル」の幅を基本にしています。石田議員は、道路のカーブ部分などで、見通しが悪いまま「刈り残し」になっている箇所があると指摘、現場支援はできないとして、原案どおりの値上げがされました。

道路の除草、カーブの見通しなど配慮して



見通しの悪い市道カーブ部分(伊船町)

の状態に応じた刈り方を、発注時に指示するよう求めました

「制服リユース」の取り組みを



高橋議員は9月議会で、小中学校の保護者負担、入学時の様々な費用などを軽くする方法として、「制服リユース」の取り組みを広げること求めました。

新入生や転校生、サイズが変わってしまった子などに、制服などを気軽に譲り合えるような仕組みをつくり、家庭の事情によって学びの場に格差が生まれないようにすること、そのような取り組みを市全体でも行なうことを提案しました。

市教委は、制服・体操服・ヘルメットなども寄付を募り、出来る限りストックするようにし、保護者の負担軽減につながるよう取り組みと答えました。